

100年後の  
レコード愛好家のために。

# Grey List

グレイリスト

阿部昌和

販売目録を超えて独自の論評で綴られる  
ヨーロッパの個人コレクターから譲り受けた  
クラシック初期盤1万5000枚。

## アナログの深淵、真髓に触れたい方への羅針盤

小野寺弘滋

これは前人未到の所業である。上下巻合わせて3000ページをゆうに超える本書には、推定1万5千枚ものレコードが息づいている。

「グレイリスト」とは元々、阿部昌和さんがヨーロッパ中を漂泊して仕入れた、貴重なヴィンテージレコードのテキストのみによる通信販売用カタログだった。ガイドブックにはおよそ載ることのない、日本では誰も知らない秘められた名盤も数多く紹介された。ほぼすべてのレコードには、すなわち数万回レコードを聴いた上で、おざなりの紹介文とはまるで異なる唯一無二の文章と録音データ等が添えられており、資料的価値も高く、ドキュメントとしての読み応えも存分だ。

レコードに刻まれた音楽の魅力を読み手に伝えんとする情熱が込められた数々の小文は、演奏、録音だけでなく、再生に関しても積極的に言及。レコードは、よき再生に恵まれなければ命を持たないのだが、「グレイリスト」にレコードが息づいていると言ったのは、つまりはそういうことである。

同じ演奏が二度とできないように、同じ音を二度と聴くことができないように、レコード再生とは一期一会である。「グレイリスト」はだから一期一会の随想集とも言える。

アナログレコードの本当の深淵に分け入り、その真髓に触れたい人にとって、これ以上ない羅針盤となろう。

## 「芸術」もいいけれど、「芸」はもっといい

阿部昌和

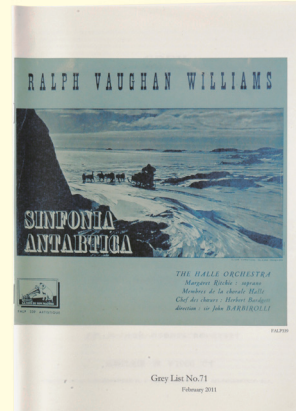
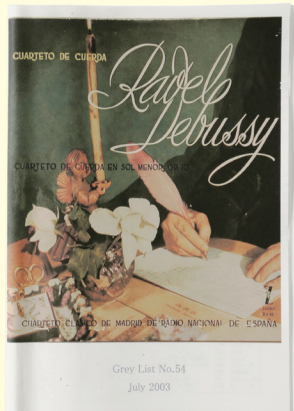
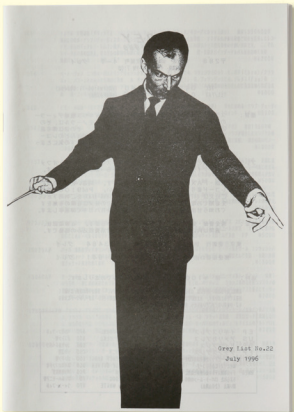
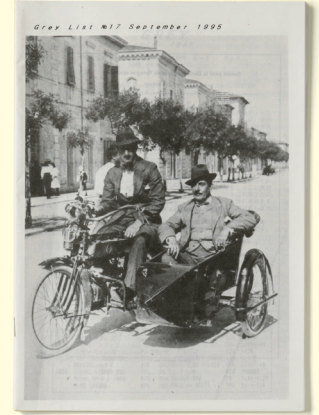
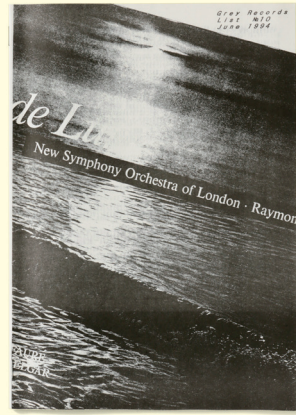
「芸術」もいいけれど「芸」はもっといい。芸術音楽は耳を緊張させますが、芸を磨いた音楽にこころは緩みます。軽妙洒脱、おかしみに戯れ、哀しみに耽る。英EMIの老エンジニアがボソッと言いました。「50年代のレコードはart、60年代はscience、70年代はproducts、それ以降はなんのことはない、ただのDataなんだよ」。このリストで紹介するレコードのほとんどはコレクタの家を訪ねて、食事をしたり泊めてもらったりしながら入手したもの。万人受けする名盤というより誰も知らない盤が多いのも、彼の地のユニークなコレクタたちのおかげです。グレイリストのお客様、すなわち数百人のパトロンに背中を押されてヨーロッパに行き、面白い盤を探し出して持ち帰ってくる。かけがえのない経験でした。そして、あの頃は状態の良い盤を入手できた最後の時代でもありました。

リストの価格はそのまま表示してあります。当時の実勢価格です。また同じ番号でも、録音年とか録音会場が異なって記されていたりします。今でこそ録音データはずいぶんと公表されるようになりましたが、リスト作成当時は資料を見つけるのは大変でしたし、資料自体に間違いもありました。

リストを書くにあたって心がけていたこと。作曲の歴史、演奏家の経歴等の羅列に堕ちることなく、レコードから受けた情緒や快楽をダイレクトに伝えること。美しい、素晴らしい、感動的など投げやりな形容詞をなるべく避ける、他の演奏家との比較はしない、アルアルやトリビア的な深掘趣味は避ける等々。

重い本です。ウェブサイトやダウンロードも検討しましたが、そうしたフォーマットが永く保存できるという保証もありません。本は電子媒体に比べればそれは不便です。だけどページを繰るうち、知らない盤や忘れられた盤に魅入られることもあるでしょう。これは資料ではなくて日記です。

100年後に寝転んで読んでくれるひとがいてくれたら、望外のよろこびです。



Grey List は1993年1月から2012年11月までグレイレコード通販リスト全74冊分を番号順に編集して所収してあります。また通常の再生では違和感がある盤にイコライザーカーヴを表示しました。初期盤再生で避けて通れないのがカーヴの選択です。

忘れられたレコードを聴いていると、未知の演奏のジャングルに分け入る気分になります。蛇あり、トカゲあり、ワニあり、極彩色の小鳥も見えてきます。クラシック音楽は決して「きれいごと」などではありません。欲と静けさと激しさが絡みあって楽譜に映し込まれたものです。ですからクラシック音楽はエロスをずいぶんと隠し持っています。古いレコードを聴くと、体が生き生きとしてくるのもそのせいかもしれません。好きなものは好き、嫌いなものは嫌い、と書きました。これは正直な日記です。

No.1 January 1993	No.6 November 1993	No.10 June 1994	No.17 September 1995
No.22 July 1996	No.33 September 1998	No.39 November 1999	No.47 October 2001
No.54 July 2003	No.68 July 2009	No.71 February 2011	No.74 November 2012

〈著者プロフィール〉

## 阿部昌和 (あべ・まさかず)

1952年千葉県銚子市生まれ。40歳からヨーロッパ各地のレコードコレクターとの交流により、貴重盤を日本に持ち帰りgrey listで通信販売を開始。スイス THORENS社製レコードプレイヤーを修復する技術を習得しグレイオーディオでレコードとオーディオのバランスの良い再生に携わる。英 GRAMOPHONE/ICRC 誌に連載執筆 (1995-6)、Coup d' Archetレーベル設立に協力。趣味は漂うこと。

〈判型、仕様〉

B5判ハードカバー  
小口三方染め  
上下巻合わせて3200頁以上

〈刷部数〉

限定300セット

〈定価〉

予価66,000円(税込)  
上下巻セット  
分売不可

〈発売日〉

2022年5月予定

〈付物〉

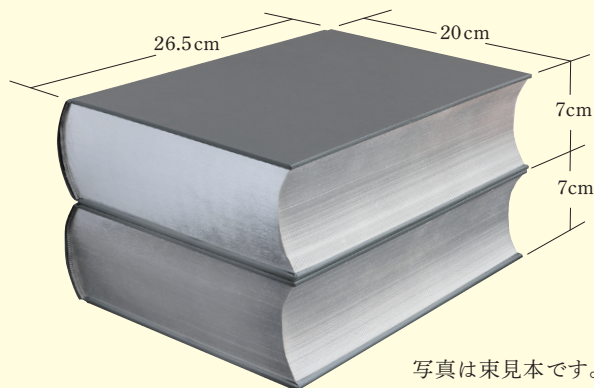
仏盤 / 英盤 番号順リストと対比表  
(故正井氏による資料)

FALP-ALP/FBLP-BLP/FCX-33CX/FC-33C/SAXF-FCX-SAX-33CX/ASDF-FALP-ASD-ALP  
番号順 + 対比表リスト  
FHX/FJLP/Les Discophiles Francais DF/Pathé DTX DT PCX/ODEON ODX OD  
番号順リスト

レコード各社の歴史とレーベルの変遷

リストあとがき集

略語説明



写真は東見本です。  
本の厚み、大きさを示すもので、  
実際のデザインとは異なります。

〈まえがき〉

小野寺弘滋

〈写真(グレイリスト表紙)〉

齋藤圭吾

〈装画〉

ワタナベケンイチ

〈編集協力〉

岡戸絹枝、上野勇治、井上有紀、高野夏奈

〈デザイン〉

有山達也

〈本文レイアウト〉

岩瀬恵子、山本祐衣、中本ちはる

●お問合せ先とご予約先

グレイ 〒288-0048 千葉県銚子市双葉町4-1 ブログ 銚子の散歩道  
電話 0479-25-1140 FAX 0479-25-3895 メール greythorens@kind.ocn.ne.jp

株式会社 キングインターナショナル 〒112-0005 東京都文京区水道2-9-2 音羽YFビル3F  
電話 03-3945-2333 メール kii-info@kingrecords.co.jp  
ホームページ <https://www.kinginternational.co.jp/>